



発行所
公益財団法人 漁船海難遺児育英会
〒101-0047 東京都千代田区
内神田1丁目2番1号
ダコタハウス5階
電話 03 (3518) 6121
FAX 03 (3518) 6122
E-mail: mizuuro.ikuei@eos.ocn.ne.jp
水色の羽根募金運動



公益財団法人 漁船海難遺児育英会
理事長 鈴木俊一

新年あけましておめでとうございます。皆さまには健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年のわが国の経済は「アベノミクス」による金融緩和・景気対策等、様々な工夫がなされて、長期にわたるデフレ不況からの脱却を図っているところでありました。また、出来事としては熊本県大地震や、オリンピック競技場問題、漁業におきましては、豊洲市場移転問題や、昨年のTPPの合意に伴う漁業経営への様々な影響が懸念され、引き続き国内水産物生産量の減少や魚価の低迷など、厳しい状況が続いております。一方、明るいニュースとしては昨年引き続き水産物の輸出が伸びていることが上げられます。

世界的には、英国のEUから離脱問題、韓国大統領の弾劾、米国内外リスク、原油価格の上昇等、今後の日本経済への不安要因となっておりま。

最近では地球規模の異常気象により、大型台風や竜巻の発生により漁船の海難事故や漁業関連施設の甚大な被害が多発していることが気になるところであり、本会では、なお一層の安全操業を願ひ、漁船海難遺児を励ます全国協議会と協賛のうえ、昨年9月に救命胴衣着用推進用「のぼり」を新たに作成して全国の浜に配布し、同運動の推進を図っているところでありま。

す。

本育英会は昨年10月、設立46周年を迎えました。当初はせめて給食費程度でもと、小・中学生に対する学資給与制度からスタートしましたが、その後、多くの寄附者からの支援等に基づき、教育費の増加に対応した、改善・充実を図りました。現在では幼稚園児から大学生等までを対象とし、奨学金についても他の類似育英団体と遜色のない奨学内容となっております。これまでの、全国の支援者および関係各位のご尽力並びに日ごろから漁船海難遺児育英事業をご支援いただいております皆さま方には、誠にありがとうございます。厚くお礼申し上げます。

今後とも、皆さまから託されたご厚志を海難遺児・遺族のために十分に役立てていくため、一層の努力をしてまいれる所存であります。何とぞ、皆さま方の温かいご支援・ご協力を引き続き賜りますようお願い申し上げます。

奨学生の皆さまにおかれましては、進学・就職を控え、希望に満ちた年明けを迎えられた方も多いかと存じます。新しいこの1年、健康に気をつけ、実り多き年としてください。

最後に、皆さま方のますますのご発展とご健勝、そして海上安全を祈念申し上げます、年頭の挨拶いたします。



漁船海難遺児を励ます全国協議会
会長 岸 宏

新年明けましておめでとうございます。

漁船海難遺児育英事業につきましては、常々格別のご支援並びにご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

昨年は、相次ぐ震災の発生や大型の台風の上陸、低気圧の通過などにより、全国各地で大きな被害が発生する年となりました。被災されました皆さまへは、この場をお借りし心よりお見舞い申し上げます。

さて、昨年措置されました平成28年度補正予算において、漁船リ

ース事業の大幅拡充や、機器導入事業の継続をはじめとする対策が措置され、また、平成29年度予算においても、浜の担い手・地域活性化対策や漁業経営安定対策など、意欲ある漁業者が将来に亘って希望を持つて経営に取り組むための、浜の構造改革を進める漁業者の取組を後押しする重要な対策が盛り込まれました。

今後は、これらの対策を最大限有効に活用し、漁村の再生に繋げていくため、浜ブランの実践をはじめ、自らの構造改革のためJFグループを挙げ全力で取り組む必

年頭挨拶



全国漁協女性部連絡協議会

会長理事 吉村 榮子



新年明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、4月に熊本で震度7の地震が発生したのを始め、観測開始以来2番目という多さで日本に接近・上陸した台風は、今までのない進路で日本列島を北上、北海道や東北地方に大雨災害をもたらしました。収穫間近のジャガイモやタマネギといった農産物が大きな被害を受けたというニュースを聞き、国民に食料を供給する同じ生産者として胸を痛めたもので

す。被災されました方々には、心からお悔やみとお見舞いを申し上げますと同時に、今こうしていると

要がありますので、引き続き、皆さま方のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

また、現在、漁業者の安全確保に向け、ライフジャケットの着用義務範囲拡大への法律改正が進められております。

JFグループでは、漁業者で構成された多面的機能活動組織による海難救助訓練の実施、漁業の労働環境の改善や海難の未然防止などの知識を持った安全推進員の養成等により安全の向上推進を図っていることもあり、漁船事故は減少傾向にあるものの、未だに多数発生しております。

ライフジャケットの着用は、漁業者が作業時の安全を確保出来る身近な取組のひとつです。

漁業者自らが海難事故のない浜づくりに取り組むことで、安全、安心な魅力ある漁業となり、担い手育成へとつながってまいりますので、作業時には必ずライフジャケットの着用をお願いします。

なお、育英会では、昨年の9月ライフジャケット着用推進による海難事故撲滅をアピールするのぼりのスローガンを8年ぶりにリニューアルし、新しいのぼり約1,700枚が、漁連・府県漁協、漁船海難遺児を励ます地方協議会を通じ、各浦浜へ配布されました。

各浜でスローガンである「着よう、着せよう、命のベスト」を見かけると思いますが、JF組合員、ご家族の皆さまからもお声掛けをお願いいたします。

結びに、被災地域の漁業、漁村の更なる復興・再生をご祈念申し上げますとともに、操業の安全並びに皆さま方のご多幸を祈念申し上げます。

最後になりますが、奨学生の皆さまには、日頃より学業、スポーツそしてご家族のお手伝いに励んでいられることと思いますが、私たち浜の応援団が見守っていることを忘れずにいて下さい。

ま、ご家族の皆さまにとつて健康で夢と希望にあふれた実り多い1年となりますことを願い年頭のご挨拶と致します。





奨学生選考委員

委員長 相上興信

新年明けまして、おめでとうございませう。

皆さまには、輝かしい新年を健やかに迎えられることとお喜び申し上げます。

あの東日本大震災から、6 度目の春を迎えておりますが、復興については、まだまだ遠く、原発の問題、及び漁船・漁業の安全対策の強化も、官民を挙げて進められておりますが、なかなか解決には程遠いという状態です。しかし、被災地では復興・復興を合言葉に、ためみない努力が続いております。

皆さまには、日頃から、漁船海難遺児育英会事業におきまして大変なご支援いただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

現在、給与奨学生・貸与奨学生を含め 228 人です。

奨学生は日々熱心に学業に専念しており、各自、自己の成長への努力をしっかりとすすめております。

2010 年より開催しております「ふれあい旅行（奨学生・保護者交流活動）」ですが、今年度も小学生を対象に「2016 年ふれあい旅行」を実施いたしました。

ふれあい旅行に参加した子供たちはすぐに友達になり、いろいろな事を体験いたしました。特に野外教育事業所のワンプク大学の代表やディレクターの方々の指導等も加わり、素晴らしい活動・体験・友との絆・将来の希望と抱負・生き方等のいろいろな事を学びました。

参加家庭の皆さんは、お父さんがいないという点で苦しみを感じ合え、たくさん話もでき、熱が入りました。

親としては、こんなことが述べられていきます。

「参加したお母さんと、普段の悩みや相談ができ、これから生き

ることについても多くの事に気づかされ、すばらしく、心に残る力を身に付けることができました。」と語っております。親同士、子供同士でそれぞれのコミュニケーションが取れるという利点があり、親として夫が亡くなつてからの問題等、辛かったことを話す機会ができた、共感が芽生え安堵感の気持ちを得られたということであり、有意義なことでありました。

奨学生の皆さんは、このような育英事業等により勉学やスポーツ活動に取り組み、家庭の手伝いや様々な事に精を出し、励めます。

奨学生諸君は家庭を守つてきてくれた、父親の偉大さを心に据え、日々頑張り、常にこれからの社会に大きな意欲を高揚させながら真つ向から勉学に取り組んでくださいます。

皆さんそれぞれ、叶えられる夢を持ち、自分の進み行く変化を大切に、苦しみを超え、笑顔が見える日々に向かって、地に足をつけ、着実に一歩ずつしっかりと必死にこれからの世の中を切り開き進んでください。

最後に、奨学生の皆さんのご健康とご家庭が夢と希望を持てた実りの多い、西年であることを祈念いたし、ご挨拶いたします。

皆さんそれぞれ、叶えられる夢を持ち、自分の進み行く変化を大切に、苦しみを超え、笑顔が見える日々に向かって、地に足をつけ、着実に一歩ずつしっかりと必死にこれからの世の中を切り開き進んでください。



第 67 回 全国漁港漁場大会

10 月 27 日（木）、メルパルクホール（東京都港区）において、全国の漁業及び自治体関係者など約 1,300 人が集結し、「第 67 回全国漁港漁場大会（主催：公益社団法人全国漁港漁場協会、橋本牧会長）」が開催されました。付議案「新たな漁港・漁場整備長期計画の策定と漁港・漁場・漁村・海

岸整備の促進に関する件」は満場一致で採択されました。本会においては、漁船海難遺児を励ます全国協議会（全協協）と、会場受付付近で募金活動を行い、皆さまより温かいご支援を賜ることができました。大会主催者はじめ、ご支援いただきました皆さまに心より感謝申し上げます。



第 63 回 全水商連全国静岡大会

11 月 6 日（日）、ホテルアソシエ静岡（静岡県静岡市）において、全国の組合員ら約 350 人が一同に会し「第 63 回全水商連全国静岡大会（主催：全国水産物商業協同組合、永井良和会長）」が盛大に開催されました。大会テーマは「今一度、魚食文化を見直そう」。

当日は、主催者側のご厚意のもと、地元の大生、JF 静岡漁連にご協力いただき、会場入口にて募金活動を行い来場された皆さまより温かいご支援を賜ることができました。また式典では、「漁船海難遺児育英資金」募金贈呈式が行われ、本会理事長に代わり、荒川邦夫 JF 静岡漁連代表理事会長から永井全水商連会長と二井則行広島島商協同組合青年部部長へ感謝状が贈呈されました。

大会主催者はじめ、ご支援・ご協力いただき、ありがとうございました。皆さまに心より感謝申し上げます。



▶ 式典の様子

農林水産祭

11 月 11・12 日の 2 日間、サンシヤインシティ（東京都豊島区）内で、第 55 回農林水産祭「実りのフェスティバル（主催：農林水産省・公益財団法人日本農林漁業振興会）」が開催されました。

このイベントは、日本の農林漁業・食品産業・農山漁村がもつ魅力を国内外に広く伝えることを目的に 2012 年より開催されている「食と農林漁業の祭典」の一環

として開かれております。会場では都道府県や農林水産団体等が出展し県産農水産物及び加工品の展示、即売や試食等が行われ、多くの来場者で賑わっております。本会は全国漁連連（JF 全漁連）ブースの一角でチラシ等を配布し本会の目的及び事業について広報活動を行いました。



ジャパンフィッシューマンズフェスティバル 2016 秋 with fish-1 グランプリ



イナリスト 6 料理・6 商品の中より審査員と来場者の投票でグランプリを決める「魚の祭典」です。試食・投票が行われている間には、さかなクンがステージで歌やダンスを披露するほか、次世代を担う水産高校生による発表や福島・宮城から旬の便りと水産庁等から復興に向けての活動報告などが行われました。



なお、今回グランプリに選ばれた商品は、プライドフィッシュ料理コンテスト部門「天然ビワマスの親子丼（JF 滋賀漁連青年会）」、国産魚ファストフィッシュ商品コンテスト部門「いとうナゲット（JF いとうサバ男くんすり身® 使用）」が受賞されました。

本会は会場内で、風船とチラシを配布し「水色の羽根募金」への理解と協力を呼びかけ、たくさんの方々より温かいご支援をいただきました。関係者の皆さま並びに、来場者の皆さまに深く感謝申し上げます。

11 月 20 日（日）、日比谷公園（東京都千代田区）において「ジャパンフィッシューマンズフェスティバル 2016 秋（主催：ジャパンフィッシューマンズフェスティバル実行委員会、第 4 回「魚」グランプリ（主催：国産水産物流通促進センター構成員全国漁業協同組合連合会）」が開催されました。フィッシューマンズフェスティバルとは世界の海沿いの都市で開催されているもので、国民に魚の魅力やおいしさを提案し、魚大の日本を再確認して魚食推進を目的としたイベントです。こちらと同時に開催の「魚」グランプリとは「漁師自慢の魚ブライドフィッシュ料理コンテスト」と「地域を元気にする国産魚ファストフィッシュ商品コンテスト」のフ



▲「天然ビワマスの親子丼」（写真上）、「いとうナゲット」（写真下）（写真提供：JF 全漁連）

保護者から



＊「初めてのふれあい旅行」私がふれあい旅行に参加したきっかけは、自分が同じ境遇の人達に会ってみたいと思ったからです。とはいえ初めて会う人達と旅行なんて気が休まらないんじゃないかと、子供達と別々の部屋で寝るなんて不安でしかありませんでした。でも皆さんと一緒に時間をすごしていくうちにそんな不安もすぐにふっ飛びました。誰にも打ち明けられない悩みや、体験した事のある人でしかわからない悲しみを共有しあえたからです。子供達も初めは緊張しているようでしたが同行してくれたワンパク大学の方達のおかげで、すぐに友達ができ、夜には親の方を見向きもしない位に楽しそうでした。食事からお風呂、寝る時もずっと面倒を見てくれて、私達はゆつくり自分の時間をすごせました。温泉にゆつくりつかり、夜も子供達を気にせず寝る事が出来、心身共にリフレッシュする事ができました。色々な体験が出来たうえに費用もすべて無料で、本当に感謝しかありません。育英会のスタッフ、ワンパク大学の方々本当にありがとうございました。一年に一回のこのふれあい旅行を楽しみに日々の生活を頑張っているように思います。【千葉・1回目・(小1、3)】

＊「初めて参加のふれあい旅行」旅行の案内が届いた時、迷いました。「同じ境遇の家族と話してみたい。子供にも必要な経験かもしれない。」と。でも、まったく知らない人達と2泊で、しかも部屋が大人と子供と別で。悩んだ末、お断りしました。しかし育英会の方から熱心にお話し頂き、不安ながらも参加を決めました。緊張しながら当日を迎え、子供も私から離れませんでした。子供達を見てくれる「ワンパク大学」スタッフさんがみんなと仲良くなれるイベントをたくさん用意してくれて、あつと言う間に楽しんでいました。私は育英会のスタッフさん、参加された方達と色々話したり聞いたりと、「私だけじゃない、みんな頑張っているんだ。」と笑ったり泣いたりして気持ちが軽くなりました。最後にはみなさんと別れる淋しさと、また来年も参加したい気持ちになっていました。【神奈川・1回目・(小2、3)】

＊「育英会の皆さまへ」こんにちは。毎日暑い日が続いていますが皆さんお元気ですか。先日のふれあい旅行では色々お世話になりました。初めての参加で、他の家族の方達とうまくやっていけるのか心配でした。でも、皆さんは笑顔で迎えてくれて、子供達はすぐにお友達と仲良くなり、私も三日間でしたけど他のお母様方と普段の悩みや相談などができたりで、とてもいい機会をつくってもらえたなと思いました。最後、皆さんと別れるのが寂しくて、子供達も「まだ帰りたくない」「まだみんなと遊びたくない」と言っていて、息子は東京駅で泣いちゃいました。それだけ楽しくていい思い出に残ったんだなと思います。また、来年も参加できたら子供達を連れて東京に行きたいと思います。本当にありがとうございました。【熊本・1回目・(小2、3)】

＊「感謝のふれあい旅行」毎年、夏の恒例行事であった「ふれあい旅行」が、ついに今年で卒業となりました。娘が小5から中3までの5回、参加させていたいただき、本当にお世話になりました。初めて参加を決めたときは、「どんな旅行かな?、緊張するな?」と不安の気持ちでいっぱいでした。でも、参加してわかった事は、親子でも楽しめる旅行ですが、何より子供同士、親同士でコミュニケーションが出来るという利点があるのです。日頃、いつも一緒にいる子供と行動は一緒ですが、ワンパク大学というスタッフの皆さんが子供達のお世話をしてくるので、旅行中は親もリラックス出来るのです。

野外教育事業所 ワンパク大学

ワンパク大学とは

1976年に伊豆七島・三宅島の観光施設で小学生を対象としたサマーキャンプを始めた団体で、今年40年目を迎える団体です。2016年度のカウンセラーは40期生となり、野外教育の事業において古い歴史と実績がある団体です。

東京都新宿区に拠点を置き、年間を通した自然体験活動(サマーキャンプ、スキーキャンプなど)を実践するほか、本会主催の「ふれあい旅行」のように、小中学校・専門学校などの受託業務や自然体験の活動指導者の養成等もおこなっている団体です。



▲ガバチョ



▲ズミさん

ふれあい旅行では

ワンパク大学のスタッフには子供たちの生活全般(朝食、イベント、お風呂、夕食、ふれあいタイム(遊び)、就寝部屋の見回りなど)を任せています。なので、「うちの子は、人見知りだし…」や「一緒に寝れないのは、不安…」など悩んでいたお母さんも、参加していただくと「私と目も合わせないほど夢中で遊んでいる。」と、ちょっぴり寂しくなれる方もいらっしゃると思います。ときに優しく、ときに厳しく、ワンパク大学の理念に沿い、子どもたちの指導をしてくれます。

イベント中に何度かある「ふれあいタイム」では、仲間と協力するゲームや手遊びなどをお母さん達にも参加していただく時がありますが、ここでも子供同様ワンパク大学のスタッフが優しく教えてくれ、楽しませてくれます。

毎回、同行していただいているガバチョ・ズミさん(ワンパク大学のスタッフはみんなあだ名で呼ばれています)は父と母のように、お二人のほかもう一人、誰が来るかお楽しみ(^^)の若いお兄さんは、必ずアイドル的存在になり、イベント中ずっと子ども達に(お母さん達にも?)囲まれ、解散するとき泣いてしまう子もいるくらいです。

ワンパク大学理念

①ひとづくり

ワンパク大学では自然体験活動を通じて「新しい発見・大きな感動」を体験し、「生活力」「生きる力」を身につけ、感性豊かで生き生きとした「ひと」を育てます。

②いのちのつながり

自然体験を通して、地球にあるすべての「いのち」がよりよく関われる為に行動できることを目指しています。



▲活動風景



また何より、夫がなくなつてからのいろいろな問題等、辛かった事を話す機会があり、私だけではない皆もそうだったの?と共感でき、安堵した事を覚えています。なかなかこういった話は誰にも出来ないのですが、同じ境遇にいる者同志、分かり合え元気をもらえました。それに、育英会と聞くと、何となくお堅いイメージがありま

すが、事務局の方々もとても接しやすく、食事等をしながら楽しいひとときも恒例で有難かつたです。我が家は来年から参加出来ないのが本当に残念ですが、迷っている家族の皆さん、試みにぜひ一度参加してみてください。最後にこれまでお世話になりました関係者の皆さまに、心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。【鹿児島・5回目・(中3)】

＊「ふれあい旅行」今回も妹の代り、甥と参加させていただきました。夜の大人だけの交流会、私は育英会のこと、大切な人を亡くした悲しみ、不安など何ひとつ分

からない状態で参加しました。微笑ましい話、そういうことなんだと思うこと、子育ての不安、聞きながら涙してしまう話などにふれあいながら、私は妹の悲しみや苦しさを分かっているようで全然分かってあげれていないなあと、涙してしまいました。家族だからこそ愚痴れないことも相談できないこともなにかしら、すつと言葉に出せる雰囲気があるのです。親子のふれあい、子供同士のふれあい、親同士のふれあい、だから親と子供達の部屋なんだ、だから「ふれあい旅行」なんだとつくづく思いました。毎年、甥が行きたがるのも子供同士のふれあいが楽しくてたまらないんだなあ、妹にとつても親子別々という新鮮なふれあい、親同士のふれあいが力の素になるんだなあと感じました。これを読んでくださっている皆さま、来年は勇気を出して参加してみてください。一年間頑張ったご褒美です。子供の意外な一面も見れる楽しいふれあい旅行です。【福岡・5回目・(中3)】

＊「初めて参加のふれあい旅行」今年もとても楽しい旅でした。みなさんの話を聞いて私だけじゃなく、同じ人もいるとわかりました。まだ旅行のことを知らない人もいると思います。一人でも多くの人が旅行に参加できるように思っています。【長崎・2回目・(小4)】

＊「ふれあい旅行」に参加して5回目になりました。なつかしい顔との対面!身体も心も大きく成長した子供達。常に心懸けてくれるスタッフの方々。会える喜びと感動。感謝。参加者ならではのワクワク感。「ありがとう」の一言。子供達、お母さん達の「会えてよかったね。元気でしたか?」その言葉が聞きたくて、参加していました。同じ境遇だから、顔を見ただけで安心。わかりあえることの感動。ふれあい旅行に参加すると楽しいことがたくさん。思い出がたくさん。是非とも参加して子供達との同じ時間を共有しませんか!【福岡・5回目・(中3)】



＊「初めて参加のふれあい旅行」私がふれあい旅行に参加したきっかけは、自分が同じ境遇の人達に会ってみたいと思ったからです。とはいえ初めて会う人達と旅行なんて気が休まらないんじゃないかと、子供達と別々の部屋で寝るなんて不安でしかありませんでした。でも皆さんと一緒に時間をすごしていくうちにそんな不安もすぐにふっ飛びました。誰にも打ち明けられない悩みや、体験した事のある人でしかわからない悲しみを共有しあえたからです。子供達も初めは緊張しているようでしたが同行してくれたワンパク大学の方達のおかげで、すぐに友達ができ、夜には親の方を見向きもしない位に楽しそうでした。食事からお風呂、寝る時もずっと面倒を見てくれて、私達はゆつくり自分の時間をすごせました。温泉にゆつくりつかり、夜も子供達を気にせず寝る事が出来、心身共にリフレッシュする事ができました。色々な体験が出来たうえに費用もすべて無料で、本当に感謝しかありません。育英会のスタッフ、ワンパク大学の方々本当にありがとうございました。一年に一回のこのふれあい旅行を楽しみに日々の生活を頑張っているように思います。【千葉・1回目・(小1、3)】



＊「ふれあい旅行」今年も参加させて頂きました。日頃遠出の旅をしない我が家にとって、この旅行は一年に一度の大イベントです。めったに乘れない飛行機に乗り、東京まで行くことも楽しみのひとつです。急いでいる時以外は、「次はどこに行つて、何に乗るんだっけ？」と集合場所までまかせた事もします。今回は初参加の家族が3組もいらして、色んな話もでき、仲良くなれて楽しく過ごせました。また、今年が最後の参加という2組の方々との別れもありました。同じ九州の方でしたので、「必ずまた会おうね」と涙と笑顔で別れました。この旅行の楽しさの意味は、参加してみないと分かりません。もし、参加を悩んでいる方がいたら、ぜひぜひ一緒に参加してほしいです。私も子供たちが参加できる間は毎年参加希望するつもりです。それから旅行のために企画・準備・お世話をしてくださった方々、寄付をしてくださった方々、みなさまに感謝しています。これからまた一年間頑張れると思います。ありがとうございました。

奨学生から



「福岡・4回目（中2、小6、小5）」

＊「楽しかったふれあい旅行」ぼくは、今年1回目のふれあい旅行で、きんちようして結だん式の時は、名前をいうことすらきんちようしました。同じ部屋の人とねることもきんちようしました。（旅行のなかで）一番楽しかったのは、「アイス作り」です。また来年もいきたいです。新しい友だちもできました。2回目がいけたらちがう所にいつてみたいです。夏休みで一番楽しかったです。

＊「楽しかったおとまり会」始めはみんな知らない人がいっぱいでした。きんちようしました。へやに行つてみんなといっぱい遊びました。カツオやガバチョというおもしろい名前の人もありました。いろいろな地方の友だちができてうれしかったです。また来年行きたいです。

「神奈川・小3・男・1回目」

＊「楽しかったふれあい旅行」はじめに、じこしようかいをしてきんちようしたけど、できました。二日目はグリーン牧場に行つて、シーブドックショーを見て犬がひつじをおいかけていて見たことないからおもしろかったです。アイス作りをしてかたくなつてきてまぜるときにちよつとたいへんだつたけど楽しかったです。ホテルではお母さんとへやがべつでさみしかったです。おふろ入ったり、あそんだりしてちよつとはへいきになりました。

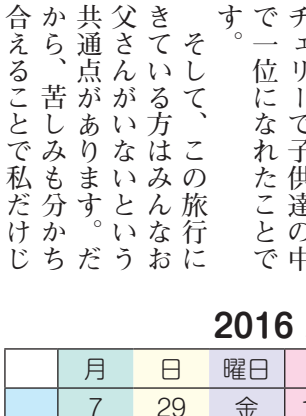


「福岡・中3・男・5回目」

＊「ふれあい旅行の思い出」ふれは、さいしよは、きんちようしてたけどおともだちとなかよくなつてきてたのしくなりました。ぼくはことしはカツオくんにおこられてばかりいたので、らいねんいけたらおこられないようにしたいです。それとみんなとおわかれしたときがさみしくてなきそうになりました。

「熊本・小2・男・1回目」

＊「これまでのふれあい旅行」僕は小さい頃にお父さんを亡くしました。もちろん、お父さんと色んなことをしたけど、覚えていません。お父さんがいたら、遊んでくれたり、一緒に過ごせたりして、楽しかったんだろうなと思うときがあります。でも、ふれあい旅行を通して、同じ気持ちを分かり合える仲間を見つけることができました。これからも頑張ろうと思えることができました。



「人生の中で最高の旅行」私は、この旅行が楽しみで毎年待ち遠しいです。私は今年が5回目で色々な人とふれあいました。1回目から経験しているのが最初緊張きみでも「久しぶり！」という声がたくさん聞こえてくるのですぐ仲良くなれます。

＊「人生の中で最高の旅行」私は、この旅行が楽しみで毎年待ち遠しいです。私は今年が5回目で色々な人とふれあいました。1回目から経験しているのが最初緊張きみでも「久しぶり！」という声がたくさん聞こえてくるのですぐ仲良くなれます。

「親と子が別々の部屋である」ということだと私は思います。この部屋の中で仲良くなると言つてもいいでしょう。私はホテルの中も楽しみの一つです。私も不安はいっぱいでした。お母さんだつて子どものことが心配だと思ひます。しかし、この旅行は「ふれあう」旅行なのです。ワンパク大学というスタッフのみなさんがしつかりお世話もしてくださり、絶対仲間はずれはありません。

この旅行では、今まで経験したことのないことがたくさんありました。私が一番思い出に残っているのはアイチェリーで子供達の中で一位になれたことです。

2016 ふれあい旅行スケジュール				
	月	日	曜日	時間
1日目	7	29	金	13:00 集合
				ふれあい旅行「結団式」
				ふれあいタイム
				14:00 出発（バス乗車）
				16:30 榛名山山麓「ときめき展望台」 散策
2日目		30	土	18:30 ホテルチェックイン、入浴
				21:00 夕食&交流プログラム
				消灯
				7:00 起床
				9:30 伊香保グリーン牧場
3日目		31	日	シーブドックショー
				乳搾り体験
				ヤギ・羊の散歩
				13:00 昼食「バーベキュー」
				アイスクリーム作り体験
				16:00 伊香保石段街
				18:30 夕食
				ふれあいタイム（子供）・情報交換会（保護者）
				21:00 消灯
				7:00 起床
				9:00 クリアキャンドル作り
				おみやげタイム
				13:00 東京駅到着（解散）

＊「今回の旅行」私が今回楽しんだ旅行です。

「長崎・中1・男・4回目」

＊「きちような体験ができる」今年のふれあい旅行は、動物とのふれあいがとても楽しかったです。

「福岡・中2・女・3回目」

＊「きちような体験ができる」今年のふれあい旅行は、動物とのふれあいがとても楽しかったです。

＊「きちような体験ができる」今年のふれあい旅行は、動物とのふれあいがとても楽しかったです。

＊「きちような体験ができる」今年のふれあい旅行は、動物とのふれあいがとても楽しかったです。

＊「きちような体験ができる」今年のふれあい旅行は、動物とのふれあいがとても楽しかったです。

＊「きちような体験ができる」今年のふれあい旅行は、動物とのふれあいがとても楽しかったです。

＊「きちような体験ができる」今年のふれあい旅行は、動物とのふれあいがとても楽しかったです。

＊「きちような体験ができる」今年のふれあい旅行は、動物とのふれあいがとても楽しかったです。

＊「きちような体験ができる」今年のふれあい旅行は、動物とのふれあいがとても楽しかったです。

＊「きちような体験ができる」今年のふれあい旅行は、動物とのふれあいがとても楽しかったです。



2016年度
第3回奨学生選考委員会

10月26日、『2016年度第3回奨学生選考委員会』を書面決議により開催しました。「奨学生出願者（10月15日締切）の選考」について審議をおこない、この結果、学資給与出願者3人に対し、小学生2人、中学生1人の計3人が奨学生として新たに採用が決定されました。

2016年12月末現在の奨学生数は、別表「都道府県別奨学生数」とおりです。

なお、次回第4回願書締め切りは1月13日（金）です。今年度最後の選考になりますので、未申請のお子さんがお近くにいらっしゃいましたら、お声掛けをお願いいたします。

※寄附金は、全て公益目的事業である漁船海難遺児等に対する修学助成事業に使用させていただきます。

◎島根県▽島根県立隠岐水産高等学校職員◎山口県▽藤麻水産◎愛媛県▽愛媛県立宇和島水産高等学校◎高知県▽杉本幸貞▽大熊水産◎明神水産◎福岡県▽藤伊藤商店▽池田正二▽福岡水産物商業協同組合▽北九州水産物小売団体協同組合◎佐賀県▽唐津魚市場◎長崎県▽海興水産◎昭徳水産◎富栄海運◎平戸魚市◎有柏木水産◎大分県▽佐伯魚市場◎宮崎県▽由丸水産

都道府県別奨学生数

(2016年12月末現在/単位:人)

都道府県名	給与奨学生					貸与奨学生	合計
	幼児	小学生	中学生	高校生等	小計	大学生等	
北海道	4	10	6	12	32	8	40
青森			1	3	4		4
岩手		8	7	9	24	1	25
宮城	1	4	4	10	19	1	20
秋田							
山形							
福島	2	9	11	6	28	1	29
茨城							
栃木							
群馬							
埼玉							
千葉		4	2	3	9	2	11
東京						1	1
神奈川		2	1	2	5	1	6
新潟			1	1	2		2
富山							
石川				2	2		2
静岡						1	1
愛知							
福井				1	1		1
山梨							
長野							
岐阜							
三重							
滋賀							
京都				1	1		1
大阪							
兵庫	1		1	3	5		5
奈良							
和歌山		5			5		5
鳥取				1	1		1
島根						1	1
岡山				1	1	1	2
広島			1		1		1
山口				1	1	2	3
徳島						1	1
香川				1	1	1	2
愛媛		2	1	2	5	3	8
高知	1			1	2		2
福岡			1		1		1
福岡有明			1	2	3		3
佐賀玄海			3	2	5		5
佐賀有明							
長崎		5	7	4	16		16
大分				1	1	1	2
熊本	2	4	2	1	9		9
宮崎		1	1	3	5	1	6
鹿児島		1	3	3	7		7
沖縄			1	4	5		5
合計	11	55	55	80	201	27	228

注1：給与奨学生には特別支援学生を含む。
注2：貸与奨学生には入学一時金のみ奨学生を含む。

寄附者からのお便り

カゼには気を付けて…（埼玉県）
朝夕冷え込、紅葉もたのしい頃に遺児の皆さまお家族の皆さまもお身体を大切に。私も先日84才にがんばります。（千葉県）
目的にむかって、夢にむかって叶うことは並大抵ではありませんが、のりこえていくことに価値があると思います。（埼玉県）
天候が不順で、各地で被害が出ています。自然には謙虚でありたいですね。（埼玉県）
よい お年を…（埼玉県）
今年は世界的に何かと変化の多い年でした。外側が変化しようとして内がしっかりとした考えがある、外にふりまわされません（埼玉県）

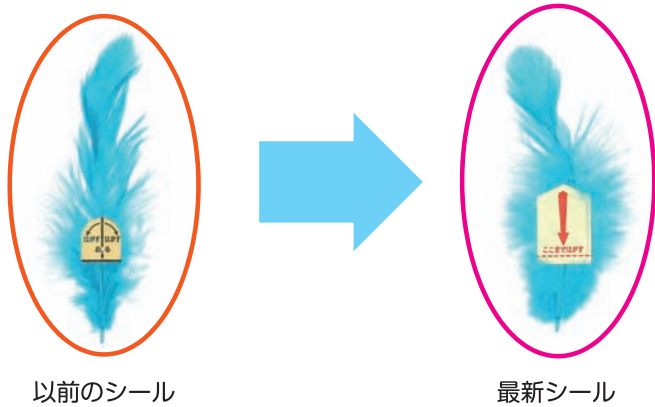
お知らせ

ゆび募金（募金型自動販売機）による
2016年8月末までの（2007/6エントリー）
寄附金累計額は
1,416,761円
です。

ご協力ありがとうございました。
※ゆび募金に関するお問い合わせは事務局まで

保護者からのお便り

いつもお世話になります。12月です。インフルエンザなど流行しているようですが、無理なさらないようご自愛ください。（岡山県）



募金資材をリニューアルしました

本会のシンボル「水色の羽根（シール版）」ですが、募金活動協力者および寄附者の方々より「は

編集後記

◆本会役員より年始のご挨拶をさせていただきます。

奨学生並びにご家族の皆さまのご多幸をお祈りいたします。また、日頃ご支援を頂いている皆さま方にとりましては佳年となります。今年役職員一同祈っております。

今年の干支（えと）は丁（ひのと）・酉（とり）だそうです。奨学生にとり進級や入学・卒業、就職等、飛翔の年を有意義に迎えられるよう願っております。（石山）

※昨年は体調不振の時期もありましたが、本年は好きなお酒を少し減らして、体を大事にして仕事に

新しい年が、皆さんにとって素敵な年になりますように！（高橋）

※今年も感謝の気持ちを忘れず、健康に気を付けてがんばります。皆さまにとって幸多き年となりますように。

※今年こそダイエット。毎年の抱負。…今までは自分を甘やかしていたが、娘たちの（小学校）卒業・（保育所）卒所まであと2か月。短期決戦で必ず成功させます。皆さんも目標を掲げてみてはいかがですか？

邁進したいと思います。健康が一番ですよー（大野）
※あつという間の一年でした。今年も充実した一年でありますように。（梶山）

がしづらい」「すぐ落ちてしまう」とのご意見をいただいております。たので、改善をいたしました。以前と比べ、はがす箇所を紙にしましたので簡単にはがしやすくなりました。り、はがす工程も単純化しました。また、粘着部分も広くなりましたので強度も増したものとなっております。

ります。水産関係のイベント・祭事、学校の文化祭等において、募金活動にご利用いただき、周知していただければ幸いです。依頼につきましては本会ホームページ「注文表」にてFAX、またはメール、お電話にて受付けております。